

2022 年度第 4 回価格審査会の開催について

2022 年度第 4 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2022 年 7 月 14 日(木)
場 所	6 階大会議室
委 員	田中 弘 日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 シニアエンジニア 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 竹本 康之 東日本建設業保証株式会社 業務部 業務サービス課長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 早川 和利 東日本建設業保証株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久 監査審査室 室長：今井 豊 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2022 年度第 3 回価格審査会議事録(案) 確認

2022 年度第 4 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
1. 「建設物価」8月号、「Web 建設物価」8月号 ・ 価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 月積み契約分鉄鋼販売価格 形鋼、鋼矢板、鋼管ぐい、鋼管、鋼板（全国）、H形鋼(札幌市ほか 55 都市)、セメント（鳥取市ほか 8 都市）レディーミクストコンクリート（旭川市ほか 102 都市）、コンクリート用骨材（稚内市ほか 82 都市）、道路用砕石(札幌市ほか 220 都市)、再生砕石（むつ A 地区ほか 31 都市）、コンクリート型枠用合板（全都市）、アスファルト混合物（旭川市ほか 220 都市）、ストレートアスファルト（全都市）ほか ・ 価格が下落した資材（工事費） 【Web 建設物価】 異形棒鋼(東北、関東、九州地区)、ねじ節鉄筋(東北、関東、九州地区)、600Vビニル絶縁電線（全都市）、電線（全都市）、鉄スクラップ(全都市)、非鉄スクラップ（全都市）ほか

2. 比較資料		
・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。		
審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	鉄スクラップ価格が下落し 4 万円前後と昨年 10 月頃の水準である。鉄筋も同時期の 10 万円を下回る水準に今後なるのか。	鉄スクラップ価格が下落したものの、鉄筋メーカーは現在の鉄スクラップ価格でも利益の出ない既契約があるとして販売価格を据え置いている。鉄スクラップの大幅下落から、先行きが弱含みであることには変わらないが、10 万円を下回るか、といった今後の価格水準についての予想は困難である。
質問 2	メーカー各社が価格改定する回数が増えている。公表価格の調査はどのように行っているのか。	公表価格は年 1 回 4 月～6 月に通信調査を実施し、それ以降は価格改定が確認され次第更新している。
質問 3	鉄筋が東北・関東・九州地区で値下がりしている。鉄スクラップは全国的に下がっている。鉄筋と鉄スクラップで値動きする地区が異なる理由はなにか。	鉄スクラップは国際相場の影響により各地区で同じような動きになる傾向が強い。鉄筋は各電炉メーカーの価格政策や各地の需給状況等の市場環境の違いから各地区で別々の動きになる傾向がある。
質問 4	レディーミクストコンクリート、アスファルト混合物の値上がりは「製造・輸送コストの増加」とのことだが、値上がりの影響は製造コストと輸送コストとどちらが大きいのか。また輸送コストの値上がりは人件費と燃料費のどちらなのか。	値上げの影響は大半が製造コストで原材料費の値上げである。輸送コストの値上がりは人件費と燃料の両方である。
質問 5	レディーミクストコンクリートとアスファルト混合物の最大変動率が、それぞれ 150%と 100%と非常に大きい。その理由はなにか。	レディーミクストコンクリートは小型車割増額、アスファルト混合物は夜間割増額の価格変動によるものである。
質問 6	軽量盛土材の一般材の値上がりは数パーセントでブランド品はかなり上昇している。値上がり率の大きさの違いはなにか。	一般材は複数メーカーが取り扱いしているので比較的落ち着いた値動きになりやすい。ブランド品は個別メーカーの判断で動くので大きな値動きをする場合がある。今回は一部メーカーによる金物部品の大幅値上げによるものである。

質問 7	電線価格の下落理由として、銅相場が急落とのことだが、銅相場の今後の見込みはどうか。	銅相場は国際的な相場取引となるため予想しにくいのが、影響要因として大きいのは世界的な需要の見通しである。欧米の金利引き上げ、中国の景気回復の遅れなどから、需要が低下すると予想され目先は弱含みである。
質問 8	鋼管の関連でほとんどが 5,000～10,000 円の値上げというなかで、コラムが 25,000 円と突出して値上げ幅が大きい理由はなにか。	鉄骨造の物流倉庫が全国で非常に多く建設されている。これに使われるコラムが逼迫しているためである。
質問 9	レディーミクストコンクリート価格の動きは、大阪地区は高値で名古屋地区はそれより大分低い水準で 2020 年 2 月から横ばいが続いている。今後の動きはありそうか。	レディーミクストコンクリートの大阪地区は、値上げを来年の 4 月からと打ち出しており足元の動きはない。名古屋地区は今年 4 月から 2,000 円を打ち出しており交渉がまとまれば値上がりするとみられる。
質問 10	肥料は窒素の値上がりに伴うメーカー値上げが浸透とのことだが、窒素は燃料などエネルギー関連の値上がりと関連はあるのか。	窒素系肥料は原料であるアンモニアから製造されるので、原油価格高騰の影響を受けるが、値上がりの主要因は、主要生産国である中国が自国消費を優先して輸出を抑えていることにより国際相場の価格が高騰しているためである。
質問 11	高力ボルトの値上がり理由はなにか。過去に製品不足から上伸した時期があるが、今回も同様の理由か。	今回の値上がり理由は、原材料の鋼材の価格上昇によるものである。需給ひっ迫による影響はほとんどない。
質問 12	レディーミクストコンクリート価格の 10 大都市では福岡地区のみ上伸でその他の地区は全国的に値上がりしている。大都市とその他の地区に値動きの違いはあるのか。	10 大都市でみた時に大阪は値上げが 23 年 4 月、札幌は 23 年 1 月から、高松は 22 年 10 月からと値上げ交渉がこれから行われる都市が多い。その他の地区では今年 4 月から値上げを打ち出しているところが多い。大都市は駆け込み注文の影響で値上げ交渉の本格化が先になっていると言えるかもしれないが、因果関係は明確ではない。
審議結果	「建設物価」8月号、「Web 建設物価」8月号の価格動向に問題はなかった。	

以 上